

# ドーパミンニューロンの多様性について (Multiple dopamine systems)

**講演者： 内田直滋 教授**  
**ハーバード大学**

**<日時> 平成29年 6月 5日(月) 17:30~18:30**  
**<場所> 理学部 1号館 1階 106号室 (BP1)**

中脳の腹側被蓋野 (ventral tegmental area, VTA) や黒質緻密部 (substantia nigra pars compacta, SNc) のドーパミン作動性ニューロンは、報酬にもとづく学習、動機付け、運動に重要な役割を果たしていると考えられている。これまでドーパミンニューロンは、実際に得られた報酬と予測された報酬の差、つまり、報酬の予測誤差 (prediction error) を計算し、脳の広い部位に信号していると考えられていた。しかし、最近の研究から、報酬予測誤差以外のシグナルを送るドーパミンニューロンが存在することが明らかになってきた。今回は、ドーパミンニューロンの多様性に関する、われわれの解剖学的、電気生理学的研究を紹介し、新しいドーパミンニューロンの反応特性、およびその機能について議論する。

*Biophysics Seminar*

生物科学専攻生物物理学系 / 京都大学  
大学院理学研究科 / TEL

平野 丈夫

753-4237